

北・北海道中央圏域定住自立圏共生ビジョン懇談会（書面）開催結果

議題（１）定住自立圏の形成に関する協定の見直し

（２）定住自立圏共生ビジョン登載事業の取組状況および定住自立圏共生ビジョンの変更等

（３）その他

について委員各位からいただいたご意見・ご質問、及び各市町村からのコメントは次のとおりです。

ご意見①

アフターコロナを見据えた事業も必要ではないか。

リモートワークやウェブの活用からくる、ソフト・ハードの整理があれば新たな方向性も見えるのではないか。

回答

コロナ禍によりリモートワークが推奨され、民間企業においてはワーケーションの取組が目されるなど、新たな地方への流れが生まれております。

このような流れを受け、本定住自立圏域においても各自治体で国の交付金を活用した光回線の整備を行うなど、インターネット環境の充実に向けた取組を進めております。

まずは各自治体で取組を進めた後、広域での取組の必要性について検討して参ります。

ご意見②

なよろ市立天文台の活用について、私含む市民有志で「WEB-TV きたすばるどっとこむ」というインターネットテレビ生放送を天文台から行っています。（動画配信サービスを使った、週1ないし2週に1回配信）

例えば近隣町村からの情報提供（生出演や編集動画提供など）があれば、番組の中で放送に載せることが可能です。北・北海道中央圏域の観光・イベント・移住などのPR 宣伝などにご活用いただけるかと思えます。

行政的政策事項に加えられるものではないかもしれませんが、中心市の公共機関の利用・連携として、こういったことから行われることも構想の普及啓蒙としてはいいのかなと思えます。

回答

ご提案をいただきありがとうございます。「きたすばるどっとこむ」については、有志の方が主体となり、なよろ市立天文台と連携して行っている取組です。天文関連の話題に限らず、広く情報発信に利用できることを構成市町村に情報提供させていただきます。

ご質問

以前の会議の中でも話題になっていたかと思われませんが、観光入込客数で剣淵町が他の市町村の中で群を抜いているのはどのような場所（施設）への観光が多いのでしょうか。また外に向けてどのようなPR等の努力がなされている結果なのでしょうか。

浜頓別町、美深町は道外客の入込客数が多く、道外へ向けどのような発信をされているのでしょうか。

回答

剣淵町の観光入込客数は、「道の駅」「絵本の館」「レークサイド桜岡温泉」「桜岡公園」の合計となっております。道の駅利用者数が大半を占めており、立地条件が功を奏しているものと考えております。また、PRとしては全国誌に年1回の広告掲載などを行っております。

なお、浜頓別町及び美深町の道外からの観光客が多い理由として、次の通り考えております。

浜頓別町

- ・北オホーツク100kmマラソン大会の開催により、町の知名度が向上した
- ・3棟あるコテージは稼働率が約70%と高く、道外客の利用も多い。併せて道の駅の利用にも寄与
- ・クッチャロ湖畔にあるキャンプ場も道外客の利用が多く、併せて道の駅の利用にも寄与
- ・上記の理由により、特に道外向けのPR等を行っていませんが、既存のまちの資源との相乗効果が図られている

美深町

- ・美深アイランド内キャンプ場では、低料金と各方面への移動を考えた際の利便性の良さから、長期間滞在し道内旅行の拠点とする方が多い
- ・体験型観光について、町内アウトドアガイド事業者を含め観光協会が中心となりHP等での情報発信を行い、道外客の受け入れに積極的であることが誘客に結びついていると考えられる
- ・全国的にも知名度がある「トロッコ王国美深」はマスコミにも取り上げられる機会もあることから、道外客からの集客力が高い